

資料編

参考文献一覧

はじめに

Blong, R. J. 1984: Volcanic Hazards

第1章

北海道防災会議、1971：十勝岳——火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策——. 『北海道における火山に関する研究報告書』 1, 136.

伊藤英之、2003：十勝岳グラウンド火口形成以降の火山活動史の解明と危機管理対応に関する研究. 北海道大学大学院理学研究科博士学位論文, 249.

小嶋 尚ほか、2003：『日本の地形2 北海道』, 東京大学出版会, 359.

第2章

福間博史・孫田敏・南里智之・青木文明・大谷栄・沼田寛、1997：体験者聞き取りによる十勝岳大正泥流のCG映像再現. 『砂防学会研究発表会概要集』, 278-279.

北海道旭川土木現業所、1996：泥流地帯～悲劇を繰り返さないために～（CG入り防災啓発ビデオ）

猪狩源三、1940：十勝岳爆発泥流に関する調査成績. 『北海道農事試験場報告39』, 136.

村野義郎、1965：十勝岳の土石流について. 『新砂防』, Vol. 18, No. 3, 14-23.

中村左衛門太郎、1926：十勝岳泥流の速さ, 地球6-2, p. 79-82

南里智之・金子幸正・藤原明、1995：富良野川における大正泥流の流下状況—体験者への聞き取りから— . 『砂防学会誌（新砂防）』, Vol. 47, No. 5, 30-35.

南里智之・樽林基弘・山廣孝之・名取哲哉・金子幸正・長谷川浩二・新谷融、2004：1926年十勝岳火山泥流の体験情報聞き取り・現地痕跡調査による流下特性. 『砂防学会誌（新砂防）』, Vol. 56, No. 5, 33-44.

十勝岳爆発罹災救済会、1929：『十勝岳爆発災害志』, 521.

第3章

『十勝岳爆発災害志』

『上富良野百年史』

『美瑛町史』第1巻、第2巻

『美瑛町議会史』

『美瑛町百年史』

『北海道議会史』第2巻

『新北海道史』

『国史大辞典』

『十勝岳爆発災害小志』

「北海タイムス」

「小樽新聞」

「旭川新聞」

「上富良野町役場所蔵文書」

永井秀夫・大庭幸生、1999：『北海道の百年』，山川出版社。

第4章

Barberi, 2004 : Geophysical Research Abstracts, Vol. 7, 10714, 2005, © European Geosciences Union 2005, A plan for reducing the volcanic risk of Vesuvius.

美瑛町、1987, 2002 : 美瑛町防災緊急避難図。

藤原伸也・中川光弘・長谷川撰夫・小松大祐、2004 : 北海道中央部，十勝岳火山の最近約3000年間の噴火史。『日本火山学会2004年度秋季大会講演予稿集』，14。

池田保夫、1982 : 北海道十勝川上流地域の酸性火砕流堆積物の層序と火山活動史。『地質学雑誌』，88, 55-70。

INGEOMINAS、1985 : Mapa de riesgos volcanicos potenciales del Volcan Nevado del Ruiz. Memoria Eplicativa. Bogota, 27.

石川俊夫ほか、1970 : 北海道防災会議No.1, 1971年2月知事記。

石川俊夫・横山 泉・勝井義雄・笠原 稔、1971 : 十勝岳一火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策一。北海道防災会議, 87。

石川俊夫・横山泉・勝井義雄、1972 : 樽前山一火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策一。北海道防災会議, 124。

岩崎岩次ほか、1962 : Volcanic Gases in Japan. Bull. Tokyo Inst. Tech., 47, 1-54。

上富良野町、1986, 2001 : かみふらの町防災計画避難図。

勝井義雄・横山泉・藤田隆男・江原幸雄、1975 : 駒ヶ岳一火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策一。北海道防災会議, 194。

勝井義雄、1986 : 南米コロンビア ネバド・デル・ルイス火山の1985年噴火と泥流災害。

都市の変容と自然災害, 石原ほか編、: 日本学術振興会, 257-270。

勝井義雄、2005 : 十勝岳のハザードマップ。『月刊地球』, 27, 265-269。

勝井義雄 (代表)、1989 : 1988年十勝岳噴火の推移, 発生機構および社会への影響に関する調査研究。文部省科学研究費, 突発災害調査研究成果, No. B-63-5, 108。

勝井義雄・荒牧重雄・宇井忠英・河内晋平・渡辺秀文、1986 : 1985年11月のネバド・デル・ルイス火山の噴火と泥流災害。『火山』, 第2集, 31, 81-83。

Katsui, Y., Kawachi, S., Kondo, Y., Ikeda, Y., Nakagawa, M., Gotoh, Y., Yamagishi, H., Yamazaki, T. and Sumita, M., 1990 : The 1988-1989 explosive eruption of Tokachi-dake, Central Hokkaido, its sequence and mode. Bull. Volcanol. Soc. Japan, 35, 111-129。

勝井義雄・高橋 保・江藤進治・河内晋平・渡辺秀文、1986 : 南米コロンビア国ネバド・デル・ルイス火山の1965年噴火と災害に関する調査。文部省科学研究費, 自然災害特別研究突発災害研究成果。No. B-60-7, 102。

勝井義雄・高橋俊正・大場与志男・平井喜郎・岩永将暉・西村 豪・曾屋龍典・伊藤 宏、1963 : 十勝岳1962年の噴火。岩鉱, 46, 213-226。

勝井義雄・横山 泉・岡田 弘・大島弘光、1987 : 十勝岳一火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策、補遺。北海道防災会議, 87。

岡田 弘、1993 : 十勝岳の火山噴火の予知と防災。『月刊地球』, 号外 No. 7, 155-169。

Okada, H., Nishimura, Y., Miyamachi, H., Mori, H. and Ishihara, K., 1990 : Geophysical significance of the 1988-1989 explosive eruptions of Mt. Tokachi, Hokkaido, Japan. Bull. Volcanol. Soc. Japan, 35, 175-203。

Sigurdsson, H. and Carey, S., 1986 : Volcanic disasters in Latin America and the 13th November 1985 eruption of Nevado del Ruiz volcano in Colombia. Disasters/10/3/1986, 205-216。

多田文男・津屋弘達、1927 : 十勝岳の爆発。『東大地震研究所彙報』, 2, 40-84。

Tokarev, P. I., 1963 : On a possibility of forecasting of Bezymianny volcano eruptions according to seismic data. Bull. Volcanol., 26, 379-386。

横山泉・勝井義雄・大場与志男・江原幸雄、1973 : 有珠山一火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策一。北海

道防災会議, 254.

横山泉・勝井義雄・江原幸雄・小出潔、1976：雌阿寒岳—火山地質・噴火史・活動の現況および防災対策—。北海道防災会議, 138.

磯部鉱業株式会社技術室、1962：十勝硫黄鉱山噴火災害誌

札幌管区气象台、1962：昭和37年6月29日十勝岳噴火に関する調査報告

東京都防災会議、1990：伊豆諸島における火山噴火の特質等に関する調査・研究報告書

十勝岳爆発罹災救済会、1929：『十勝岳爆発災害誌』。札幌, 521.

北海道総務部『1988—89年 十勝岳噴火災害対策の概況』。

美瑛町、1991：『美瑛町史』第5巻（1991年）。

美瑛町、1995：『美瑛町議会史』第2巻（1995年）。

『北海道新聞』、『北海タイムス』、『朝日新聞』、『毎日新聞』、『読売新聞』。

第5章

表5-4に記載の文献

北海道開発局・北海道、1988：北海道砂防計画論。砂防地すべり技術センター, 210.

伊藤英之、1999：十勝岳1926年噴火に伴う火山泥流の定置温度解析。『日本火山学会1999年度秋季大会講演予稿集』。

笠置哲造、1995：高標高、乾燥地帯の砂防工事跡地における在来植生回復方法に関する研究。『平成7年度砂防学会ワークショップ報告書』。

加藤民枝・菊池俊一・南里智之、1998：十勝岳火山砂防工事跡地における地表面礫被覆が土壌物理環境と植生回復に与える影響。『日本緑化工学会誌』, 24, 12~21.

加藤民枝・菊池俊一、2000：北海道の高標高域における地表面礫被覆が樹木の初期成長に与える影響。『日本林学会誌』, 82-3, 268~275.

樽根基弘・大谷栄・南里智之・高杉晋吾・村上昭宏・増田重憲・石見英樹、1995：高標高域・砂防工事跡地における植生導入方法について。『砂防学会発表概要集』, 309~312.

南里智之・大谷栄・樽根基弘・鎌田博・増田重憲、1993：富良野川源流部における砂防工事跡地の植生回復試験。『砂防学会発表概要集』, 65~68.

南里智之・大谷栄・樽根基弘・高杉晋吾、1994：高標高・砂防工事跡地における植生回復試験地の状況。『日本林学会北海道支部論文集』, 43, 51~53.

南里智之・大谷栄・青木文明・高杉晋吾・増田重憲、1996：高標高砂防工事跡地への在来植生導入方法について。『日本林学会北海道支部論文集』, 44, 23~26.

南里智之・樽根基弘・山廣孝之・名取哲哉・金子幸正・長谷川浩二・新谷融、2004：1926年十勝岳火山泥流の体験情報聞き取り・現地痕跡調査による流下特性。『砂防学会誌』, 56-5, 33~44.

Yajima, T., Nakamura, F., Shimizu, O., and Shibuya, M., 1998：Forest recovery after disturbance by the 1926 mudflow at Mount Tokachi, Hokkaido, Japan. 『北海道大学演習林研究報告』, 55-1, 216~228.